



市民の意見を生かしたバスの実現へ学習会

4月22日(月)タウンバスを実現する会主催で、「地域住民が創る地域交通とその運動」と題して「タウンバス問題学習会」が開催されました。

講師は東海自治体問題研究所・事務局長の可児紀夫さん。国土交通省中部運輸局で地域交通の企画部門に携わり、岐阜市職員としても市民と運動を創りあげた経験の持ち主。現在は地元で民生委員を勤めている方です。

交通政策はまちづくりの土台

可児さんは、「交通政策は、福祉、医療、教育、産業、観光などの政策の土台にあり、交通政策がしっかりと位置づけられなければ、まちづくり全体が揺らぐ」「誰もが利用しやすい公共交通は外出の機会を増やし、医療費や社会保障費用の削減につながる。社会全体の利益になる。」と述べ、交通のみを切り離して考えるのではなく、まちづくりの中心として全体のなかでとらえる必要性を強調。

まず地域の実態をつかんで

またコミュニティバスを走らせる運動について、「まず学習活動が必要。どのようなバスを走らせるかという視点から入るのではなく、交通だけでなく各地域が抱えている問題をつ



かみ、福祉関係者・高齢者団体など様々な団体と共同して、あせらず、やれるところから進めていくことが大切ではないか。」「行政や交通事業者を呼んで、地域のみなさんと懇談会をくり返し開き、地域の要求を聞き取り、市民といっしょに作り上げていく姿勢が大事」「公共交通が良いところは、住民自治が良い」などと述べられました。

● 江南市では、公共交通問題について3000人対象の市民アンケートを5月下旬頃に実施する予定です。アンケートだけで終わらず、市職員が地域に飛び込み、十分に市民の意見を聞き実態をつかんで交通政策を作り上げていくことが必要ではないでしょうか。

党議員団3人もこの学習会に参加しました。

合併浄化槽の補助金が2倍以上に増額

この機会に単独槽、汲み取りからの転換を

4月から、合併浄化槽設置の補助内容が変更され、反響が寄せられています。(右表参照、詳しくは広報こうなん4月号)

新築増築時は補助の対象外となり、既設の単独処理浄化槽や汲み取り便槽からの転換の場合に限って補助金が支給されるように変わり、金額も約2.5倍に大幅アップ。また、転換補助9万円の加算対象に含まれなかった汲み取り槽も、あらたに対象となりました。

党議員団はこれまで、江南市内の市街化調整区域において生活排水の浄化が遅れ、般若川など河川の汚れが一向に改善されないことを指摘。補助金支出の意味がない新築時の補助額を減らし、単独槽や汲み取りからの転換に対し手厚い補助額に改善するよう求めてきました。



人槽区分	改正前	改正後
5人槽	168,000円	444,000円
6~7人槽	195,000円	486,000円
8~10人槽	246,000円	576,000円

*さらに9万円の加算があります。

今回、江南市でもようやく補助内容が変更され、少ない自己負担で転換が可能となりました。台所や風呂、洗面所の雑排水も浄化槽

に接続する配管工事が別途必要ですが、この工事に対しては住宅リフォーム補助も利用できます。

市政報告会で説明・宣伝したところ、大きな反響がありました。補助増額を契機に、生活排水の浄化が進むことを大いに期待したいと思います。

住宅リフォーム補助に予定の3倍の申し込み

今年度で3年目の住宅リフォーム補助制度。予算500万円、工事費の10%補助、限度額10万円という内容ですが、4月1日の受付開始後23日現在で、すでに予定の3倍148人もの申し込みがあり、予算が全く足りないことが分かりました。5月2日に締め切り、抽選で50人を当選とするということですが・・・。

一昨年度は2000万円、昨年度は1000万円の予算でした。今年度500万円で打ち切るのではなく、6月補正予算で増額し、希望者がすべて制度を活用できるようにするべきです。

なぜ市長の姿がないのか？

新ごみ処理施設、候補地説明会はじまる

江南市による、新ごみ処理施設の建設候補地説明会が始まりました。4月21日には中般若区の区会役員に対し、副市長以下関係の部課長、室長、職員などが出席し、パワーポイントによる説明が行われました。

しかし、市長の姿はなぜか見られなかったということです。

市制始まって以来の最重点事業と位置づけ、「全身全霊で取り組む」と表明している市長です。全住民対象の説明会では、直接話してほしいものです。